



コロナ禍におけるクラブの運営について

発表者：岐阜長良川ロータリークラブ
会長 辻 寛

① 例会の開催について

ロータリークラブの活動は親睦活動が第一と考えています。しかしその時の状況の変化で休会・開催の判断が必要になると思います。例えば非常事態宣言ではどの様にするのか、会員の出席が少なくなった場合はどの様にするのか考える必要があると思いますができる限り例会場のホテルと協議し会場の配置を考えて例会を開催するように考えております。

② クラブ運営委員会活動について

クラブ運営委員会の活動の第一は親睦活動が第一と考えます、例会変更による夜間例会はコロナ渦と上手く付き合い、総て開催する予定です

③ 基盤強化委員会活動について。

前年度コロナ禍の影響で 2 名の退会がありました、コロナ禍での退会は排除出来ないとは思いますが、まずは会員の維持を第一に考え退会防止に努めます。
増強については委員会の活躍で上期 2 名の入会が決まりました。前年度の会員数までになりました、コロナ禍の下での増強には大変な苦勞があります。

④ クラブ奉仕委員会活動について

クラブ奉仕活動は職業奉仕・社会奉仕そしてメモリアル奨学会の活動があります。
社会奉仕は乳幼児まりあへの助成金とメモリアル奨学会は岐山高校への奨学金の助成は本年度の計画通り行います。職業奉仕活躍は例会変更となりますので例会開催は多少考慮する必要があると思います。

⑤ 国際奉仕委員会活動について

国際奉仕活動は海外のクラブとの交流活動が主になります。7月に行う韓国安東RCとの青少年交換事業は中止となりました、また台湾新竹RCの交流は上期は中止となると思います。ロータリー財団・米山奨学会の活動は計画通り行います。
インターアクト委員会はスポンサーとなっている高校と連絡を密にし活動を致します。

以上が各委員会の活動についてです。

現在のこのコロナ禍の下でコロナと上手く付き合う（ウイズコロナ）で例会の開催
各委員会の活動を会員の協力を頂き進めたいと思います